

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証
分担研究報告書

（課題名）多発性硬化症診療ガイドラインの作出と髄鞘イメージングによる個別化医療の検討

研究分担者 中原 仁 慶應義塾大学 医学部 教授

研究要旨

多発性硬化症の医療水準と患者QOLの向上には、個別化医療の実践が求められる。この目的において髄鞘イメージングを用いた個別化医療の可否を検討し、以て頭記の目的に資する研究を展開する。

A. 研究目的

多発性硬化症の髄鞘イメージングデータを集積し、個別化医療の実践に有用かを解析する。

B. 研究方法

髄鞘イメージングデータについては慶應義塾大学病院に通院中の多発性硬化症患者を対象に当該データを集積する。

（倫理面への配慮）

慶應義塾大学医学部の倫理審査を受審した上で、該当者の文書による同意を得て、法律その他関連法規を遵守した上で実施する。

C. 研究結果

髄鞘イメージングデータの集積を進めた。

D. 考察

本研究期間内には研究は完了していないが、予定通り進捗を認めており、今後の展開が期待される。現時点では、特定の薬剤において髄鞘再生が生じやすい因子などが同定されつつある（未発表）。

E. 結論

多発性硬化症の個別化医療の実践において、髄鞘イメージングが有用かについてさらなる検証を進める。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Rafael Canani Sommer, Junichi Hata, Carolina deMedeiros Rimkus, Bruna Klein da Costa, Jin Nakahara, Douglas Kazutoshi Sato. Mechanisms of myelin repair, MRI techniques and therapeutic opportunities in multiple sclerosis. *Multiple Sclerosis and Related Disorders*. 58:103407, 2022.

2. 学会発表

該当なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。